平成２１年度第５回日進市障害者自立支援協議会小委員会議事録

日　時　平成２１年１０月２８日（水）　午後２時００分～午後５時００分
場　所　図書館２階会議室
出席者　＜委　員＞川原喜代美　脇田勝広　林和子　大島淳子　熊谷豊
　　山田達巳　小林千津子
　　＜欠　席＞加藤統祥
　　＜事務局＞福祉部：山中参事
　　福祉課：松田課長
傍聴の可否　可
傍聴の有無　１２名
議　題　１　自立支援協議会への報告書検討について
　　２　その他

座　長　ただいまから第５回小委員会を開催する。前回に引き続き報告書の検討を行う。事務局から資料を修正した部分の説明をする。

事務局　はじめにを追加した。会議等の経緯を時系列で表にした。会議開催については項目だけでなく、何を確認したかを付記した。団体ヒアリングは人数について指摘があったので修正した。団体の概要は各団体に確認し修正した。５ページの表は、楕円形で表示していたものを３段階の丸にし、表の下に注釈を付記した。アンケートの主な内容の部分は詳しく記述した。論点と課題の部分は、６項目で整理していたが、前回の意見を参考にして５項目にした。提案された見直し案についての意見をアとイの２つにしている。各項目に意見の例を示した。文体に関して、事実の部分以外は「何々です」ではなく、「何々と考える」というような表現にした。アンケート集計は、前回の意見を元に、全体集計、身体障害集計、知的障害集計、精神障害集計の４つ分けた。別にある１枚の意見等の集約の資料は、５・６ページの表で表現する部分について、前回、表の元データがはっきりしなく誤解を与えるかもしれないので、カットしてはどうかという意見があった。そこで、カットしたらどうなるかということで作成してある。ヒアリング等の意見は各団体に確認しており、修正等があった場合はそのまま記載することとして作業している。

座　長　「はじめに」は新たに追加したので、あとから検討したい。２ページ以降から確認したい。

委　員　経緯にゆったり工房の開催日が抜けている。９月１９日と１０月１６日の２回分である。

座　長　追加する。

委　員　９月１６日の「あゆみ」を「愛歩協力会」にして欲しい。

座　長　修正する。小委員会の部分は日付も含め太字にするなど分かりやすくしたほ

うが良い。市へ提出された２件の要望書は資料として付けるか。

事務局　写しではなく、本文をそのまま転記してつける。

委　員　それでよいと思う。

委　員　この報告書は扶助料見直しに関するものなので、小委員会の役割から考えると、３月に計画が策定されたことと４月に計画がスタートしたことは記載しなくて良いのではないか。

事務局　他の委員にも計画の経緯が分かったほうが良いと思い記載してある。

委　員　それで良いと思う。

座　長　３月からにするか、４月からにするかどうか。

委　員　案のままでよいと思う。

座　長　案のままとする。そうすると、障害者基本計画と障害福祉計画の２つが記述されるが、それぞれの説明は要らないか。

事務局　２つの計画書は１回目の自立支援協議会で資料として渡してあるので、説明は要らないと思う。

座　長　了承した。経緯部分の修正は、ゆったり工房のヒアリングを追加することと、愛歩協力会に修正することの２点とする。次に小委員会の会議開催の部分はどうか。

座　長　第３回の（３）とその下の全体説明会の記述部分は、第２回の間違いではないか。

事務局　修正する。

座　長　その他は良いか。

委　員　１０月１０日に全体説明会を行うことは確認したが、追加の２回分は会として確認していない。アスタリスクで記述してあるのはそういう理由からか。

座　長　団体ヒアリングを行っていく中で、追加が必要だとなってきたのでそのようにしてある。次に団体ヒアリングの部分はどうか。

委　員　１０月１６日のゆったり工房の２回目は、欄外でなく表の中に入れて欲しい。１３名参加、委員２名、市２名である。

座　長　表の中に入れる。

座　長　５ページの表であるが、前回は楕円で示していたものを３段階の丸で示してある。表は視覚的に分かりやすいが、表そのものが正しいのかなど誤解をまねかないかという事で、表をカットした２つの案がある。前回、ヒアリングの意見がどの項目にあてはまるのかの判定が難しいのではないかという意見があった。

委　員　前回も発言したが、視覚的には良いと思うが、表の根拠がどこにあるかが曖昧である。中途半端な表であれば示さないほうが良いと思う。載せるなら整合性をきちんとしなければならない。各団体の確認も必要なのではないか。

委　員　表の見方にずれが出てしまうと思うので、それをあえて載せるのはどうか。

委　員　それは１つ目の表だけか。

委　員　両方の表のことである。
委　員　表だと自分自身の感覚とも合わないものもある。
委　員　結果的に参考にもならないと思う。これにとらわれてしまう危険性もあるので、アンケート結果、論点と課題を確実に伝え、ヒアリング等での意見は参考資料として載せればよいのではないか。
委　員　私が提案したものであるが、人数を記し、大まかな目安として載せても良いのではないか。読み取りにくい部分もあるかもしれないが、表はあっても良いと思う。特に２つ目の表については方向性が見えると思う。各団体にもう一度確認しても良いのではないか。
委　員　この表で何を引き出すのかが分かりにくい。整合性がはっきりしない。
委　員　なぜヒアリングの意見と表での表し方が違っているのか。
委　員　実際の意見をどう分類するかで違っていることと、最初からこのような表にするという前提で意見聴取していないからだと思う。
座　長　意見を分類することは、分類する人によっても違ってくるし、皆さんで話し合ってもなかなか難しいと思う。
委　員　そういう点は想定していなかったのか。
座　長　表にしようとする案は後から出てきた。曖昧な表で判断を迷わせるのであれば、載せないほうが良いと思う。
委　員　そのとおりだと思う。
座　長　６ページのように６つの視点での分類ができたのはひとつの成果だと思うが、視覚的に表す方法として表はどうかと思う。
委　員　たくさんの意見が出たので、文章だけでは読み取りにくいと思う。みなさんの意見も分かるが、おおまかな物として表があっても良いのではないか。
座　長　表を修正することも考えられるがどうか。
委　員　視覚的に捉えやすいようにという事であるが、各団体の意見とずれがあってはいけない。
委　員　中途半端ではいけない。自立支援協議会では文章を読んでいただいて考えていただきたいと思う。論点と課題の部分を重視したい。
座　長　表に注釈があっても、団体どうしの比較にも見えてしまうかもしれない。
委　員　意見の言葉の数から表にされているが、言葉の本質がどこにあるかは見えない。各意見は資料として付けるのであるから、ここで表にこだわる必要はないと思う。
座　長　他に意見はあるか。
委　員　表よりも文章のほうが良いと思う。
座　長　中途半端にしないため、表にはせず、別に資料のように表と注釈を抜いた形にする。次にアンケートの部分はどうか。
委　員　回収数の計が障害別の数字を足した数字と合わないが、障害別未記入分が抜けているのではないか。

事務局　障害種別が未記入の方の８名が抜けているので、表に追加して修正する。

座　長　集計表は全体集計と障害種別集計を付ける。主な内容の部分は、委員から提案のあった内容を加味して修正してある。数字等が入って分かりやすくなったのではないか。

委　員　ここに記入すべきかどうかは分からないが、障害手帳を持っている人がなぜ障害年金をもらえないのかを記述してはどうか。制度が違うのでそうなっていることを説明したほうが良いと思う。

事務局　資料編として、障害種別毎の扶助料受給者数、所得保障の関係の国、県の資料を付け加えるので、そこに記述しても良いし、この部分に記述しても良いと思う。

委　員　口頭でも良いかもしれないが、何らかの説明が必要だと思う。

座　長　ここに記述したほうが良いのではないか。

事務局　制度が違うので、資格要件が違うというような表現を追加する。

座　長　他の制度との関係は、セーフティーネットの部分でも関係してくると思うのできちんと説明しておいたほうが良い。他に無ければ全体説明会の部分はどうか。

座　長　無ければ論点と課題の部分についてはどうか。前回の意見によって項目を５点にして順番を変えてある。また、意見の例を追加してある。

委　員　セーフティーネットという言葉の注釈が必要なのではないか。

委　員　意見の例の「生活の糧になっている人に対して新事業は大丈夫か」という部分は分かりにくくないか。

事務局　この例は、個別給付ではなく、まちづくりのための新事業ということであると思われるので、扶助料が生活の糧になっている人に対して新事業だけで大丈夫かというような表現はどうか。

委　員　分かりにくいのであれば、違う意見を例として載せてはどうか。

委　員　障害年金を受給していない人への所得保障というような例でも良いのではないか。

座　長　他に意見の例などはあるか。

委　員　他の施策との整合性をとりながら、セーフティーネットの対応が必要であるとしているが、具体的なものを例示してはどうか。

事務局　委員からいただいた意見にもあったが、どの部分に対してセーフティーネットを考えるかという場合に､既存制度との配慮が必要であるということである。例えば、重度の方で障害年金を受給している方よりも、ある程度軽度でも障害年金が受給できず、働けなくて収入がない方のほうが深刻ではないかというようなことである。

委　員　無年金者が４割で、収入が１０万円未満の人が７割弱であることからも、障害者が自立していけるような経済保障施策が欲しい。今回の件で学習会も行ったが、収入が１０万円を超える人の中には、扶助料をもらえなくなっても、年

金の無い人に渡ればよいという意見もあった。そういう点では新事業に転換するよりも経済保障することができれば良いと思う。またヒアリング等では、ひとり暮らしの人の居住サポートの必要性や、通所時の交通費などに扶助料を使っていると言うような意見もあったので、そういう点でセーフティーネットの必要性をまとめたほうが良いのではないか。

委　員　ここでのセーフティーネットは、あくまでも扶助料をなくした場合のものなので、本来の所得保障とは違う。現在の扶助料の支給の範囲内で考えるべきであり、そうでないと市の財政ももたないと思う。生活保障は国で検討することであり、ここで生活保障まで求めるのは疑問である。

委　員　さきほどセーフティーネットの解説が必要であると発言したのは、一般的には所得保障ということになってしまうので、注釈が必要であるということである。生活には困っていないが、障害のある方が家庭にいらっしゃることによって､いろいろな支出が必要になり家計を圧迫しているという意見もあったので、ここでは広い意味でのセーフティーネットの解釈であるという注釈が必要である。低所得の人を支えるためのセーフティーネットではない。セーフティーネットという言葉自体が適切ではないかもしれない。

委　員　文章と意見の例が合わないかもしれない。

座　長　最後にもう一度確認する。新事業の明確化部分はどうか。

委　員　意見の例の「新事業がないと分からない」というのは、新事業がないと扶助料廃止の是非がわからないということではないか。

座　長　そのように修正する。

委　員　文章の中の「新事業の内容が具体的に見えない中での扶助料廃止は将来の不安が大きくなる」という部分の将来の不安はどういうものか。

委　員　新事業の内容が見えないという不安だと思う。

委　員　扶助料が廃止されるなら、それに変わる何かが求められる。そこが見えないからメリットがあるかどうかも分からないので、廃止は困るということだと思う。

座　長　具体的な部分は意見の例で読み取れるのではないか。

委　員　総合的な相談センターや自立支援協議会の説明をすれば分かるのかといえばそうではない。実績を積んでいかなければ分からないと思う。実績を積んだ上で説明していけば、役立っているのだということが分かってもらえると思う。

委　員　相談センターをスタートしても、相談がどれだけあるのかは分からない。

委　員　そうであるから時間がかかるということである。

事務局　この部分は、どなたかの意見で入れている。新事業の具体化は自立支援協議会の役割であるとしていることをヒアリング等でも説明させていただいたが、なかなかご理解いただけず、行政が示せというご意見が多かったので、このような記述をしている。

委　員　全体説明会の中で、相談センターは天下りの機関をつくるのではないかとい

う意見もあり、本来の部分が理解されていないと感じた。実績を積んでいくことも大事だが、それ以前に広報周知が必要だということである。

座　長　説明を丁寧に行っていかなければならないということである。

委　員　相談センターと自立支援協議会の内容を伝えていくことは、課題に対する対応策である。それよりも実績を積んで信頼してもらうほうが良いと思う。

座　長　ヒアリング等では、新しい仕組みで行っていくことはなかなか理解していただけなかったのは事実なので、そこをどう表現していくかということだと思う。

委　員　計画の中には自立支援協議会の役割がはっきり記述されている。自立支援協議会のおかれた立場が重要であることを再認識した。どういう説明が必要なのかを記述したらどうか。

委　員　相談支援センターは自立支援協議会の事務局となるのか。

事務局　計画書では市と相談センターが併記してある。個別支援会議の積み重ねから自立支援協議会につながっていくというスタンスから、相談センターが事務局になることが望ましいと考えている。

委　員　事務局の範囲はどこまでか。

事務局　自立支援協議会すべての事務局である。ただし、新しい自立支援協議会は障害福祉計画だけでなく障害者基本計画も守備範囲としているが、計画推進の部分については相談センター任せに出来ない部分もあるので、ある程度目処が立つまでは市と一緒に行っていくことになると考えている。

委　員　ヒアリング等で出てきた意見の多くは、具体的な事業が見えないということである。相談支援センターをスタートしきちんと検証して行わないといけない。具体的な事業提案があれば賛成できるという意見もあった。新事業が明確ではない部分での意見の例として分かりやすいものが良いと思う。

座　長　端的に表現している例があると良いということか。

事務局　具体的な事業がないことは意見としてあった。グループホームの体験事業について専門部会で検討していただいているように、細かな部分は専門部会で検討することとしている。専門部会を通じて事業を作っていくという新しい進め方を理解いただけていない。そういう部分をこの文章に表している。

委　員　専門部会でできるのかも含め検証が必要だと思う。

委　員　やってみなければわからない部分もある。

事務局　新しいやり方なので検証は常に必要だと思う。ここに記述するかは別にしても、総合相談センターと自立支援協議会の２つで事業を進めようとしているということである。それを伝え切れなかったということである。

座　長　新事業の明確化の部分をどうまとめるかであるが、明確になっていないから将来が不安という点と、明確化するためには新しい仕組みを進めていくという両面を記述しないといけないと思う。

事務局　ここでは、どういう意見があったかを報告するというスタンスでよいと思う。

委　員　２つの仕組みが理解できれば扶助料を転換して良いということではないと思

う。

事務局　いただいたご意見は、市が具体案を示せということであるが、市が机上で考えるのではなく、市民と事業所で考えていくというやり方に変えたいということである。その部分を理解していただかないと難しい。相談支援センターでニーズを掴みながら自立支援協議会で考えていくということで、今までとは仕組みが違うと話をしてきたつもりだが、通じていないというご意見が多かった。

委　員　やはり基本計画の事から話していかなければならない。

座　長　最後の一文が「また」で接続しているが、「そのためには」などにして、段階的に変わっていくのだというような表現にしてはどうか。

委　員　計画を推進する仕組みとしての相談センターと、自立支援協議会の役割が具体的に提示されていなかった。その中で扶助料に替わる新しい仕組みが明確にされていなく、理解されていない現状がある。

事務局　新事業を市が明確化しようとすると、それは新しい仕組みを否定することにもなり、方針を転換することにもならないか。

委　員　今までとは仕組みが違うということを強調したいのではないか。

事務局　いただいたご意見とはかみ合わない部分でもある。

委　員　仕組みと扶助料を施策に転換しようということはセットなのではないか。

委　員　事業実施の財源に関しては扶助料とセットかもしれないが、施策を検討する部分はみんなで行うということなのではないか。

委　員　相談センターと自立支援協議会の仕組みが分からないから、ここでさらに説明が必要だとしている。それが伝わっていれば解決したかといえばそうではないと思う。

事務局　基本計画に記載した施策､事業の具体的な金額を示せという意見もあったが、市としては相談センターと自立支援協議会で相談しながらやっていきたいということである。個別に具体的に出せといわれると難しい。

委　員　いただいた意見はこのとおりなので、そのまま出せば良いのではないか。伝えたいことが伝えきれなく、それに対する意見なので食い違うのは当然だと思う。

座　長　最後にもう一度確認する。大きく内容がずれているというより、文章の後段部分をどう表現するかということである｡事業を明確化するための手順として、説明が足らなかったのでさらに説明が必要だということであると思う。スケジュール等手続きについての部分はどうか。

委　員　これで良いと思う。

座　長　財源確保の部分はどうか。

委　員　毎年４００から５００万円の金額は確かか。

事務局　過去の実績、高齢化、障害者の増加などから増えることは確実である。過去５年間の数字からこのような金額になる。数字を記述するかは別としても、将来的に制度維持が難しくなるのは事実だと思われる。

委　員　将来的にも制度を維持しようとした場合、来年は１０パーセントカットするなどの検討はされているか。

事務局　何年後にどうなるかは明示できない。制度維持が困難になるというのは言い過ぎではないと思う。条例で決められているので廃止しない限り制度は無くならないが、財政的な部分は分からない。

委　員　将来的に制度維持が困難であれば何らかの議論が必要だが、そういう議論はされていない。

事務局　今は扶助料の話をしているが、障害者福祉全体を見ると、国費や県費が入っている事業も増加していて、その分の市の負担も増えている。サービスを受ける人が増えれば増える。一方で市の税収が減っていけば、どこからその財源を持ってくるのかと言うことになる。１０年後の障害者の伸びを見ると、ほぼ今の倍になる計算になる。過去の数字を単純に伸ばしただけだが、サービスが増えれば手帳を取得する人も増えてくると思う。

委　員　大事なことなのでみなさんに伝えないといけない。自分たちで出来ることをやらなければならない。

委　員　「アンケート結果から見れば」以降が前回から追加されていると思うが、「現制度の維持には」以降はカットしても良いのではないか。「今の時期に見直さないと計画が進まないのではないか」と言う意見の例は、財源確保の項目にはなじまないのではないか。

事務局　次の項目に入れてもよいかもしれない。

委　員　課題は分かるが、現制度維持の観点での記述であるのでカットしても良いのではないか。

委　員　そうではあるが、すぐ先にはそういう課題もあるので入れておいたほうが良いと思う。

座　長　後段をどうするか。

委　員　ここでカットしても、どこかで記述しなければならない内容だと思う。自立支援協議会の委員のみなさんには伝えなければならないことだと思う。

座　長　金額の点なので財源確保の項目に入れておくのが良いと思う。

委　員　このままで良いのではないか。

座　長　両論併記という点でも良いと思う。

委　員　スケジュール等手続きの部分に戻るが、手続きの問題には、検討期間が短いことと小委員会も含めた手法に関することの２つがあったはずなので、両方入れたほうが良いと思う。

座　長　手法に関しては要望書を資料として付けるがどうか。

委　員　スケジュールと手法を分けて記述したらどうか。

事務局　分けずになお書き等でつなげてはどうか。

委　員　資料を付けるのであればこのままで良いと思う。

委　員　手続きの問題は、検討の期間の短さだけではなかったということである。

事務局　論点と課題の部分は、市の提案に対して、どういう課題があるかと言うことなので、手法について意見があったことは記述しても良いが、今後どうするかという課題ではないのではないかと思う。

委　員　スケジュールについてというタイトルにしてもよい。

事務局　ここでの手続きは、周知するかしないか等の手続きを分類に記述している。

委　員　検討期間が短いというのもあるが、障害特性によって情報の伝え方が違うので、そういう点でスケジュールの論点では何か付けなければならない。ようやく理解してテーブルに付ける人が出てきた段階なので、そのような点でもスケジュールがどうかということだと思う。

委　員　受給者の立場に立ったスケジュールでなければならない。

委　員　「十分な期間をもって」の前に「当事者の立場に立った配慮、」を加えてはどうか。

座　長　そのようにする。意見の例はこれでよいと思う。さきほどの意見の手続きの点はどうか。

委　員　手続きについては、ここでの役割りではない。

委　員　出す必要はあると思うが、論点と課題の部分には必要ないと思う。

座　長　論点と課題の部分には入れないこととする。障害者基本計画の推進の必要性の部分についてはどうか。

委　員　計画推進の必要性は誰もが感じていることだと思う。気になるのは扶助料のような個人給付とまちづくりがセットになっていいのかということと、このようにくくることが出来るかということである。他の意見はどう整理するのか。みんながこのように思っているわけでもない。相談センターや自立支援協議会の説明が十分出来なかったという部分と、この部分が整理できないと思う。

事務局　実際にいただいた意見が元になっているが、扶助料廃止に反対することによって事業が進まないことは困るという意見があったのでこのような記述になっている。財源確保の部分は委員の提案によって記述している。社会資源の充実よりも個人給付を望むという意見は、これより前の項目で、例えば財源を他から持ってこられないのかという意見などで個人給付を継続すべきという意見を入れてある。一方で扶助料よりも計画をという意見がどこにも入ってこないので、ここに記述している。

委　員　意見の内容が文章として始めに例示してあるため違和感があるのではないか。個人給付よりも社会資源の充実という部分の印象が強すぎるのではないか。

事務局　他でも意見内容を文中に記述しているところもある。ヒアリング等でも障害者基本計画のことを初めて知る方もいたので、この部分を皆さんが承知しているわけではない。障害者基本計画を理解してうえで、扶助料が必要な人もいるかもしれないが、計画推進を望むという意見があったということである。

委　員　扶助料廃止は絶対困るという意見はどうなるのか。

委　員　絶対反対だという意見は、その理由を整理していくとこれより前の４項目の

ようになるのではないか。

座　長　文書の冒頭の「扶助料のような」は要らないのではないか。

委　員　そうすると文章が唐突のような気がする。ここに分類される意見は、個人給付に市の独自財源が全て使われてしまって、他に財源が回らなくなって福祉のまちづくりが遅れるのであれば、福祉のまちづくりを優先したいということだと思う。

事務局　扶助料の継続によって新規事業が困難になるのであれば、基本計画の実現を望むというような表現はどうか。

委　員　扶助料廃止に反対している人が､計画推進も反対しているわけではないので、そこを感じ取れる表現が良いと思う。断腸の思いで考えないと新事業ができないという重い問題もあるが、計画を推進して欲しいという思いがあるということを表現したい｡扶助料がまちづくりと差し替えられるような表現はいけない。矛盾するかもしれないが、扶助料を廃止したくない人も計画推進を願っているはずである。

事務局　扶助料見直しを反対する人の中にも計画推進が必要との意見もあるという文を入れてはどうか。

委　員　扶助料を廃止しないと計画が推進できないと言うと、扶助料廃止に賛成せざるを得なくなり、計画推進したいという意見が出てくる。

委　員　いろいろな面に配慮することも分かるが、あまり加工せず、実際に出た意見をそのまま書いて、代表的なものを例示すれば良いと思う。

委　員　不必要だと思われる部分でも重要なことがある。

委　員　羅列した文から比較的配慮できているものを選んでも良いのではないか。あまり作文するのは良くないと思う。

委　員　計画を推進するため扶助料見直しを検討する必要があるという意見もあった。個人給付かまちづくりかという選択のような部分は抵抗がある。計画を推進するために扶助料を見直して欲しいという意見もあったはずなので反映したい。計画推進は皆が願っていることであるので、そうするにはどうしたらよいかを記述すべきである。

座　長　「扶助料（個人給付）よりも社会資源の充実（まちづくり）を目指した障害者基本計画の推進を望む意見や、新規事業の明確化がなされれば基本計画の推進を望むとの意見がある。上記課題を踏まえ、さらに検討する必要があると思われます。」としてはどうか。

委　員　財源の部分と重複するような気がする。扶助料も計画も進めるということの元は財源のことであるので、改めて記述するのはどうか。論点整理という点ではややマイナス的な感じがする。

委　員　計画推進したいから扶助料は要らないという意見、扶助料全廃でも良いので推進して欲しいという意見、セーフティーネットなどの施策があれば廃止して計画推進したいという意見などがある。計画推進の必要性はいろいろな人がい

るということをどこかに入れたい。

事務局　ヒアリング等では扶助料があれば良いという意見もあったので、全員が計画推進して欲しいということではない。

委　員　ここは全部のまとめではないはずである。まとめであればいろいろなことを盛り込まなくてはならないが、そうではない。それぞれ単独であるはずなので、この部分だけで考えれば良いのではないか。

事務局　まとめのような部分が必要であれば、別の項目として書いても良いのではないか。

委　員　ある程度の意見を言わなければならないかもしれない。

委　員　報告書であるので客観性があれば良いが、そうではないと思う。

委　員　反対意見も含め資料として付けている。

座　長　両論併記としてまとめたい。文章はさきほどのようで良いか。

委　員　良い。

座　長　セーフティーネットの部分に戻るがどうか。

事務局　さきほどの委員の意見で、セーフティーネットの意味の取り方が問題となる。例えば、家族から貰うお金でない唯一のお金がセーフティーネットであるとも解釈できる。行政では、生活するために生活保護で保障されることがセーフティーネットとしている。セーフティーネットは広い意味で使われるので注釈が必要なのではないか。

委　員　セーフティーネット等としてはどうか。

委　員　報告書はそのままにしておいて、自立支援協議会で検討していけばよいのではないか。

座　長　そのようにする。新事業の明確化の部分はどうか。

事務局　後段の２行を取ると意味が通じなくなるがどうするか。

委　員　ヒアリングに参加して、相談センターと自立支援協議会については、単純な説明だけでも必要だと感じたので、この部分は必要だと思う。先進地ではうまくいっていると言う説明も良いかもしれない。

委　員　言葉で伝えることが必要なのではないか。ヒアリング等を通じて、課題として説明が必要だということである。

委　員　さらに丁寧な説明が必要というような記述にしてはどうか。

座　長　そのようにする。報告書の最初の「はじめに」はどうか。

委　員　これでよいと思う。

座　長　他に意見がなければ、本日の意見を元に事務局で修正する。

事務局　１０月２９日までに修正してＦＡＸで送信するので、本日の修正点を確認していただき、訂正があれば３０日の１０時までに連絡いただきたい。

座　長　本日の会議を終了する。